

第6学年 国語科学習指導案

平成27年11月13日（金）第5校時
授業者 松井 勝彦

1. 単元名

ものの見方を広げよう

読み取ったこと、感じたことを表現
しよう

2. 教材名『鳥獣戯画』を読む

「この絵、わたしはこう見る」

3. 指導の立場

本教材は、アニメーション映画の演出家である高畑勲さんが、「漫画の祖」といわれる国宝の絵巻物『鳥獣戯画』の一場面の絵を取り上げて解説をした説明的な文章である。そして、「筆者のものの見方を捉え、自分の考えをまとめる」ことをねらいとしている。また、筆者のものの見方とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方と比較したりできる教材である。本単元では「鳥獣戯画」のもつ魅力を「絵」「絵巻物」「歴史的背景」を切り口に、絵と文章を照らし合わせて、筆者のものの見方や考え方を読み取らせ、それを名画の解説文を書かせるという活用場面に生かすことができる。これらのことから、次に学習する書くこと領域の「この絵、わたしはこう見る」と複合させた単元を構成する。「ものの見方を広げる」という単元名の通りに、子どもが筆者の見方と自分の見方を比べて、自分の見方を広げたり、筆者の考えに近づいたりできるようにしたい。この解説文を読むことで、自分だけでは気付かない鳥獣戯画のすばらしさを理解できるはずである。

児童はこれまでに、5年「生きものは円柱形」、6年「時計の時間と心の時間」で、筆者の考えや主張を読み取り、それに対する自分の考えをまとめる学習をしている。しかし、実体験や科学的な事実を根拠とした主張とは違い、「ものの見方」は個人の感性によるところが大きく、根拠も具体と抽象が入り混じってくる。そこで筆者のものの見方を学ぶためには事実と感想、意見などの関係を押さえることが重要になる。

この点で児童は、事実と考えの区別や関係性を捉える力が弱いと言える。事実を確実に捉えていないことで考えが曖昧になることがある。また、この事実からこう考えるという根拠を明確にできない面が

見られる。

本単元では「解説文を書く」という言語活動を見通し、自分のものの見方で絵を読む力と、読み取ったことを「評価を表す言葉」を用いて表す力を身に付けさせたいと考える。絵のよさをどう読み取ったらよいのかを知るために、『鳥獣戯画』を読むの高畑勲さんの「何を」「どのように」伝えているかについて単元を貫く言語活動を設定することで、『鳥獣戯画』を読むを読む目的をはっきりさせ、読んだことを書くことにつなげる。特に筆者の「何を」「どのように」ものの見方を伝えているか捉えるために、筆者が「鳥獣戯画」の「何をとり上げ」「どこに目を向け」「どのような言葉で評価しているか」に着目することを大切にする。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全12時間の単元指導計画である。第一次では、何のために教材文を読んでいくのかをはっきりさせる。第二次では、「絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉えて読む」を大切にして、鳥獣戯画を読んでいく。そして、第三次で「猿のいる熱帯の森」の解説文を書くからという点を明確に示し、必然性をもたせる。

○研究内容2に関わって

〈交流の形態〉

深めの発問の場面でグループ交流を取り入れる。グループのメンバーで各自の考えを交流し、話し合いを進めていく。その後は全体交流を行い、各グループから出た意見から宝の意味を深めるようにする。

〈深めの発問〉

本時では、筆者が鳥獣戯画への最大の評価「人類の宝」と表現している。その評価になるのは、自由な心で表現されていること、長い間大切に保存されてきたことが主な理由となる。これらには、筆者の強い思いが関わっている。「人類の宝」という言葉で表現した思いを考えることで、筆者の鳥獣戯画に対する見方をより深く理解できるようにする。

〈学習のまとめ〉

まとめの段階で、自分で考えて書く力をつけるために、キーワードに色をつけ、そのキーワードを用いて書くことができるようにしていく。

5. 単元指導計画

◇単元の指導目標

- ◎絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。(読ウ)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読オ)
- ◎表現の効果を確かめたり工夫したりして書くことができる。(書オ)
- 絵から感じたことの中から書くことを決め、全体を見通して事柄を整理することができる。(書ア)
- 事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる。(書ウ)

単元を貫く課題
作品に対するものの見方を広げ、絵から読み取ったことや感じとったことを伝える解説文を書き、クラスの仲間に紹介しよう。

次	時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準 (評価方法)
第一次	1	絵を初めて見た自分の考え方と『鳥獣戯画』を読む」を比べて読み、筆者のものの見方に対して関心をもつことができる。	1. 書き出しの文章を提示し、何の話か、想像する。 2. 本時の課題の確認をする。 書き出しの文章と題名から、内容や筆者の主張を予想し、学習の計画を立てよう。 3. 題名の意味を考える。 4. P133の絵を見て感じたことや思ったことをノートにまとめる。 5. 最初の感想を書く。	①題名	【関】「ものの見方を広げよう」という単元の目標に沿いながら、関心を高め、単元の学習の見通しをもっている。(発言・ノート)
	2	文章の全体の構成をつかみ、大まかな内容について確認する。	1. 本時の課題の確認をする。 文章構成を確認しよう。 2. 大きく「絵」と「絵巻物」について書かれていることを確認。	③段落の中心となる言葉・文 ⑥「はじめ」「中」「終わり」	【読】全文の文章をとらえ、段落ごとの関係を確認している。(発言・ノート)
第二次	3	事実と感想、意見などとの関係に着目し、事実としての「絵」のどの部分を取り上げ、「感想・意見」としてどのように評価しているのかを具体的に読み取り、自分の考えをまとめることができる。	1. 文章には「絵」と「絵巻物」についての説明と、筆者の評価が書かれていたことを確認する。 2. 本時の課題の確認をする。 「絵」について、筆者は何をどのように評価しているか読み取ろう。 3. 音読をする。(①～③段落) 4. 「絵」について、「どの部分の」「何に」着目し「どのように」説明したり、評価したりしているのかを絵と文章を照らし合わせて読む。 5. 全体交流をし、「絵」について、事実と感想、意見の叙述の仕方について確かめる。	○書き出し 「はっけよい、のこった。」 「どうだい。」 ②終わりの言い方 「…返し技。」 「…野ウサギ。」 「…ごらん。」 「…わかるね。」 ③段落の中心となる言葉・文	【読】事実と感想、意見などとの関係を押さえて「絵」について読み、自分の考えをまとめている。(発言・ノート)
	4 5	事実と感想、意見などとの関係に着目し、事実としての「絵巻物」のどの部分を取り上げ、「感想・意見」としてどのように評価しているのかを具体的に読み取り、自分の考えをまとめることができる。	1. 「絵」について、事実と感想、意見がどのように叙述されていたのかを思い出し、前時の振り返りをする。 2. 本時の課題を確認する。 「絵巻物」について、筆者は何をどのように評価しているか読み取ろう。 3. 音読をする。(④～⑦段落) 4. 「絵巻物」について、「どの部分の」「何に」着目し「どのように」説明したり、評価したりしているのかを絵と文章を照らし合わせて読む。 5. 全体交流をし、「絵巻物」について、事実と感想、意見の叙述の仕方について確かめる。	②終わりの言い方 どうだい。 なんだろう。 わかるね。 ちがいない。 ⑨絵と文をつなげる	【読】事実と感想、意見などとの関係を押さえて「絵巻物」について読み、自分の考えをまとめている。(発言・ノート)

	6 本 時	「鳥獣戯画」の絵巻物を描き手の心、歴史的価値、日本文化などに着目することで、「人類の宝」と表現して評価する、絵巻物の素晴らしさに感動している筆者のものの見方を捉えることができる。	1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。 2. 本時の課題を確認する。 『鳥獣戯画』がどのようなものか読み取ろう。 3. 第⑧⑨段落を音読する。 4. 課題を解決するための見通しをもつ。 5. 一人読みをする。 6. 全体交流をする。 7. 考えを深める。 8. 本時のまとめをする。 9. 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	②終わりの言い方 ④つなぎ言葉 ③段落の中心となる言葉・文	【読】 ・筆者の「鳥獣戯画」に対する評価をとらえている。 ・自分なりに分かることを考えてノートに書いている。 (発言・ノート)
	7	考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について考えることができる。	1. 前時までの振り返りをする。 2. 本時の課題を確認する。 筆者が、自分の見方を伝えるために表現や構成で工夫していることを見つけよう。 3. 筆者が工夫していることを書く。 4. 交流する。 5. 単元の学習を振り返る。	○書き出し 「はっけよい、のこった。」 「どうだい。」 ②終わりの言い方 「…返し技。」 「…野ウサギ。」 「…ごらん。」 「…わかるね。」 ⑨絵と文をつなげる	【読】表現や構成の工夫を読み取ることができる。(発言・ノート)
	8	「鳥獣戯画」の絵について、自分の考えをまとめて発表することができる。	1. 本時の学習課題を確認する。 「鳥獣戯画」の絵について、自分の考えをまとめて発表しよう。 2. 筆者と自分のものの見方や感じたことを比べる。 3. 教科書P140L9に対する自分の考えを二百字程度でまとめる。 4. 交流し、同じ絵を見ても、人によって着眼点や感じ方が違うことを確かめる。	⑨絵と文をつなげる	【書】自分なりの着眼点で、考えを書くことができる。(発言・ノート)
	9	「この絵、わたしはこう見る」を読み、「猿のいる熱帯の森」の絵から読み取ったこと、感じたことを付箋に書き出すことができる。	1. 「鳥獣戯画」を読むで学習したことを確認する。 2. 本時の課題を確認する。 新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて考えを交流しよう。 3. 視点を参考に、感じたことを付箋に書いていく。 4. 書いた内容を交流し、どの観点からの意見なのか整理し、絵画を見る観点を確認する。	⑨絵と文をつなげる	【書】絵画を見て読み取ったことや感じ取ったことを書き出している。(付箋・ノート)
第三次	10 11	付箋の効果的な表現方法を考え、「読み取ったことや感じ取ったことを表す表現」「見る場所や見る方法を表す表現」を取り入れて感じたことが伝わるように、解説文を書くことができる。	1. 前時の振り返りをする。 2. 本時の課題を確認する。 絵画の解説文を書こう。 3. 付箋に書いた内容は、事実なのか感想や意見なのかを整理する。 4. 絵から読み取ったことや感じ取ったことを文章に書く。	②終わりの言い方 見える 感じる 表れている 一ではないだろうか。 一にちがいない。 ○書き出し	【書】事実と感想、意見などとの区別をして書くために文末表現の工夫に気が付いている。 (ノート)
	12	解説文を読み合い、絵の見方のよさや表現の仕方への工夫に着目して、助言し合うことで、ものの見方を広げることができる。	1. 書いた解説文を見直す。 2. 本時の課題を確認する。 解説文を交流し、感想を伝え合おう。 3. グループで交流する。 4. 全体で交流する。 5. 学習を振り返り、まとめる。		【話】自分の書いた解説文と仲間の書いた解説文を比べて、共通点や相違点に気付いている。

6. 本時の展開（6／12）

（1）本時のねらい

「鳥獣戯画」の絵巻物を描き手の心、歴史的価値、日本文化などに着目することで、「人類の宝」と表現して評価する、絵巻物の素晴らしさに感動している筆者のものの見方を捉えることができる。

（2）本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ【5分】	今までの学習をふり返り、本時の課題をつかむことができる。	1. 前時までの学習をふり返り、本時の課題をつかむ。 ◇第一次で段落構成について学習をした。そこから考えると、第⑧⑨段落はまとめにあたる。筆者は『鳥獣戯画』について、どのようにまとめたのだろうか。 2. 本時の課題を確認する。 『鳥獣戯画』がどのようなものか読み取ろう。	・背面掲示や自分のノートを活用して、ふり返る。
さぐる【25分】	課題の内容を考えながら音読することができる。 大事な言葉を捉えながら、その理由を、段落ごとにノートに書くことができる。	3. 第⑧⑨段落を音読する。（各自） 4. 課題を解決するための見通しをもつ。 「説明文の読みのかぎ」の②⑧が使えるようであることを確認する。 ②文末表現 ④つなぎ言葉 ③段落の中心となる言葉・文 5. 一人読みをする。 今までの読みをふまえて、第⑧⑨段落をどのようなものか分かる言葉の部分に線を引き、そこから分かることをノートに書き出す。 ・十二世紀から今日まで →長い間残されて大切にされている。 ・絵の力を使って物語るものが、とぎれることなく続く →言葉でなく、絵の力で伝えられたものがずっと続いている。 ・祖先たちが、絵巻物を大切に保存し、伝えてくれた。 →災害や戦争などもあったにも関わらず残されている。 ・何物にもとらわれない、自由な心をもっていたにちがいない →絵を使ってありのままを表現している。 ・世界のどこを見渡してもない →世界に誇るべきもの。 ・自由闊達 →絵の力を使って伝えるものが表現されている。 ・国宝であるだけでなく、人類の宝 →とても大切なものである。 6. 全体交流をする。 ・「鳥獣戯画」は、長い間残されてきた。自由な心で表現された絵の力で、今につながるものがある。だからこそ「人類の宝」といえる。	・読み終わった子は座ってもう一度読む。 ・「説明文読みのかぎ」を見て使えるものを全体で確認し、一人読みで活用できるようにする。 ・課題に対する答えとなる評価している言葉は教科書に線を引き、ノートには、そこから分かることを書く。その際、段落意識をもつために、段落番号を書く。
深める【10分】	「人類の宝」と評価している筆者の思いを考えると理解を深めていく。	7. 考えを深める。 「人類の宝」という言い方から筆者のどんな思いが伝わりますか。 ・これからもなくしてはいけなほど貴重なものである。 ・祖先たちが大切に保存してくれたことに感謝している。 ・漫画やアニメの祖として本当に貴重なものだ。 ・ずっと昔に初めて描いた人がいたことで今のように発展してきた。 ・他にはかえられない値打ちのあるものである。 ・1つの国をこえて、世界の宝である。 ・これからも残していかななくてはならない。	・前の学習からも高畑さんの思いにつなげて考える。 ・グループ交流をし、班の中で深める。
まとめる【5分】	本時の学習の内容をまとめに表すことができる。	8. 本時のまとめをする。 『鳥獣戯画』は、何物にもとらわれない自由な心をもってかかれたものであり、長い間大切に保存されてきたことで、「人類の宝」とまで評価されている。他にはかえられない貴重なものなので、これからも大切にしないとはいけない。 9. 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	評価規準・評価方法 【読むこと】 ・筆者の「鳥獣戯画」に対する評価をとらえている。 ・自分なりに分かることを考えてノートに書いている。（ノート・発言）